

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890101102
法人名	社会福祉法人 安寿会
事業所名	グループホームあわい
所在地	松山市小川甲214番1
自己評価作成日	平成28年5月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 6 月 14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりを大切に、その方のこれまでの生活をできる限り続けていけるような場所でありたい。個性を大事にして、自由にのびのびと暮らして頂けるように支援していく。認知症となっても笑顔で過ごすことが増えるような関わりを大切にできる関係作りに努めている。その人らしく個性を大切に生活を送ることができることを目指している。5S活動・接客強化にて清潔で気持ちの良い施設作り。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は高齢者総合福祉施設の1階に併設されており、開設3年目を迎える。長年にわたって地域医療と福祉に貢献してきた法人の活動を基盤に、地域に信頼され地域の支援を実感しながら交流を深めている。地域介護教室や認知症サポーター養成講座の開催、地域住民を招いて行われる花火大会など地域に根付いた活動を行っている。職員は法人の理念に基づいた経営方針を念頭に、日々サービスの向上に努めている。常に利用者を第一に考える姿勢を大切に、利用者の力を引き出して暮らしの中で役割を持ってもらえるよう働きかけたり、身体機能を維持するために楽しみながら歩行練習を実施する工夫等、職員が話し合いながら取り組んでいる。訪問中利用者が職員に、「ゆっくりおしな。」「よう気がつくなあ。」と声をかけ、利用者と良好な関係を築いている様子がうかがえた。笑顔を大切に、地域住民や家族と協力しながら利用者の支援に努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホームあわい
(ユニット名)	かなで
記入者(管理者)	
氏名	横山啓介
評価完了日	平成 28年 5月 26日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「地域社会への貢献」が自分達の役割として認識できるよう終礼での理念復唱を行っている。各職員は意識づけができています。また、グループホーム独自の理念は、スタッフ室に掲示している。</p> <p>(外部評価) 法人理念に基づき、「お互いを認め合い笑顔が自然に出る馴染みの関係作り、その人らしい生活を送り安らげる環境作り、地域住民・ご家族とのつながりを大切にする」という事業所独自の理念とユニット毎の目標を掲げている。職員は、常に利用者を第一に考え、暮らしやすく居心地の良い事業所づくりを目指して、笑顔を大切に自立支援に努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の方々への挨拶を日常的に心掛けている。利用者の方と一緒に洗濯物干しに外へ出る時など、ご近所の方とお話ができている。地域清掃や行事へ参加し交流している。</p> <p>(外部評価) 管理者は年を追うごとに地域とのつき合いが深まり、地域に支えられているという実感を持っている。正月のしめ縄や門松づくり、餅つき会を地域の方と一緒にいたり、花火大会や夏祭りでは櫓や資材を借りて協力して実施している。また、小学生が職場体験に来て伊予漫才を披露してくれたり、利用者が散歩の途中で近所の方に野菜をいただくなどの交流がある。事業所では、地域清掃に参加するほか、地域住民を対象に介護教室や認知症サポーター養成講座を開催している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 「地域介護教室」という地域の方々を対象にした勉強会を開催し、事業所からの情報発信を行う場が作られている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2ヶ月に1度、運営推進会議を行い、ご利用者やご家族から頂いた意見を参考にしながら、サービス内容を振り返り、できることから改善を行っている。参加できていない職員へも議事録回覧し情報共有している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者と家族のほか、区長や民生委員、地区婦人会、評議員、地域包括支援センター職員、市職員の参加を得て2か月に1回開催しており、スライドを使った活動報告やミニ勉強会の後、活発な意見交換が行われている。また、参加者からの地域の情報提供や屋上での行事開催の提案などをサービス向上に活かしており、参加者と職員が親密になり協力関係も生まれている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に参加をして頂き、事業所の実情など積極的に伝え、情報を得ている。</p> <p>(外部評価) 市職員は運営推進会議に出席して事業所の実情を把握するとともに、情報提供や助言を行っている。問題が生じた時には市担当課と連絡を取り、解決に向けた話し合いを持つなど協力関係ができています。また、法人が地域包括支援センターを運営しているため、協力して職員の資質向上のための教室を開催する等連携している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束ゼロを念頭に置き、利用者の行動の自由を奪うことがないように、言葉かけにも気を付けている。日中、玄関の施錠はせず、外に出たい希望は可能な限り、叶えるようにしている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束防止・廃止委員会があり、年に1回勉強会を行っている。転倒の危険がある利用者に対しては、移動しやすい環境を整えたり、センサーマットを活用して職員が見守るようにして利用者が安全かつ自由に行動できるよう支援している。今年度は法人をあげて「言葉遣い」に気を付けており、気付いた時に互いに注意し合うようにしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止について、勉強会などで学ぶ機会をつくり、日々の自分たちの言葉や行動が虐待に繋がらないか注意をしながらケアにあたっている。夜間帯、一人の時間等の様子も可能な限り管理者が抜きうちで観察している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在対象者がおられず実施できていないが、今後知識を深めていく予定としている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者からの十分な説明を行っており、契約を結ぶ際にも、その後も不安や疑問点に丁寧にお答えするよう心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営に関して、利用者、家族から意見や要望があれば、受け入れるようにしている。面会時入居者の状態報告やご意見を伺うように努めている。家族会も開催し、意見、要望をより引き出せるようにしていく。	
			(外部評価) 職員は家族来訪時や、電話で家族の意見を聴き取るよう努めている。玄関先に意見箱を設置しているが、これまでの意見は感謝の内容だけであった。また、納涼祭とクリスマス会に合わせて年2回家族会を開催し、自由に意見を述べてもらえるよう配慮している。管理者は家族の要望や具体的な意見をより一層聴き取れるよう、家族会の回数や方法について検討している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員からの意見を聞いて運営に活かされている。代表者と管理者それぞれとの面談が設けられている。職員一人ひとりの話をよく聞かれている。  (外部評価) 職員は、管理者のことを意見や提案を言いやすい存在で話しやすい雰囲気があると感じている。事業所では年3回個別面談を行い、施設長や管理者が職員の意見を聞く機会を設けている。また、リフレッシュ休暇を設けたり、法人内で研修の機会を保障するなど、職員が意欲を持って働けるような環境づくりをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、管理者や職員個々の日々の業務態度をよく把握している。各自がやりがいと意欲を持って働けるように環境整備に努められている。リフレッシュ休暇を年1回取得実行中。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 毎月法人内で勉強会・GH勉強会を実施しており、職員一人一人のケアの質の向上を目指している。働きながら、勉強や研修ができるようすすめられている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同法人内に事業所が複数あり、法人勉強会などで事例検討したり交流する機会がある。自分たちのサービスの質を向上させられるよう意識をしている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 新しい環境に入居してこられ、不安も抱えられておられる状態なので、心情を察しながら、こまめに声をかけるように、話に耳を傾けるように、心掛けている。センター方式等情報を早期に収集するよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居された本人同様、家族なども様々な不安や希望を持っておられる為、何でも話しやすい雰囲気作りをしている。また、生活の様子を電話や面会時に伝えている。安心感を第一に考え受け答え迅速・正確に細やかに心掛けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居時オリエンテーションを行い、必要とされている事を優先して入所時ケアプランに取り入れ、支援を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 調理や掃除洗濯、日々の生活で知恵を拝借したり、職員も教わりながら良い関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご本人にとって、家族との絆にかえられるものはないので、その絆を大切にしながら、連携がとれるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご本人がこれまで大切にされてきた家族、友人、知人と過ごされる時間を大事にしている。また、ご自宅や家族宅などへの外出、外泊も支援している。開かれた施設作りに努めている。	
			(外部評価) 地元出身の利用者が多く、家族や親せきが多く面会に訪れている。職員は事業所の敷居を低くして、気軽に会いにきてもらえるよう努めている。突然知人が訪ねて来る場合もあり、家族に利用者が入居していることを伝えて良いか入居時に確認し個人情報に配慮している。家族と外食に出かけたり、外泊する利用者もあり、馴染みの関係が継続できるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の相性やお互いの気持ちなどを観察するようにしている。席の配置や職員が仲裁にはいたり、気をつけている。お互いに思いやり、声をかけたり教えあったりする良好な関係作りができています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 病院に入院となり、グループホームを退去された利用者や家族の面会に行かせて頂くなど、これまでの関係性を大切にしている。相談にのるなど、法人全体でバックアップする。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) これまで暮らして来られた長年の生活について、知る努力をして、その方の望む生活がどのようなものかを理解していき、実現に繋げていく。  (外部評価) 職員は、日常的に行われる利用者同士の会話や昔話の中からは、利用者の思いや希望を把握するよう努めている。事業所は開設して日が浅いため、利用者の奥深い思いや意向は家族の方がよく理解していることもあり、家族からも情報を得るようにしている。職員は常にアンテナを張り巡らせ、利用者に関することは小さなことも見逃さないよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの暮らしはどうであったか、ご本人や家族、友人、知人等から情報を集めていけるようお話を聞いたり、情報シートに記入をして頂いている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) カルテに経過記録、熱計表への記録として残し、細かく把握できるようにしている。有する力の活用にも努めている。観察の眼を日頃から養い常にアンテナを張る。情報共有の徹底。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画は、本人を中心として家族、知人、ケアに関わる職員などで話し合いを行い、現状でのより良い生活を目指して立案されている。	
			(外部評価) 介護計画は、利用者毎の担当職員と計画作成担当者が協力して立案し、家族や必要に応じて法人の看護師や理学療法士を交えて話し合いの上作成しており、職員全員が共有している。職員は、実施状況を毎日確認し、毎月のモニタリングに反映させている。また、利用者の状態に変化がある場合はその都度見直し、ない場合も6か月に1回見直しており、現状に見合った計画かどうかを確認している。なお、介護計画書は、家族に同意を得られるよう細かく丁寧に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の記録の中でも、特に本人の言葉や表情をありのままに記入するようにしている。その上での気づきを次の実践や介護計画に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 帰宅願望の強い方には、自宅周辺を目指してドライブを行ったり、家族と共に病院への通院介助を行ったりと可能な限りのお手伝いをさせて頂いている。状態の変化に伴いサービスの提案や、医療機関との連携も素早くとっている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域のお祭りに参加させていただき、獅子舞いやだんじりを目の前で見てもらうことで活力が湧き、また、地域の方とも交流を図ることができている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医が決まっている方は、家族の協力を得て受診し て頂き、適切な医療が受けられるようにしている。 主治医が協力病院の場合は、二週間に一度訪問診療を受けら れている。	
			(外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医を受診することができる が、多くの利用者が協力医をかかりつけ医としている。協 力医は2週に1回訪問診療を行い、緊急は24時間体制を とっている。歯科医の往診を受けることもできる。車いすを 使用している利用者が専門医や総合病院を受診する際は、職 員が付き添っている。事業所看護師と協力医の医療連携のも と、安心して医療を受ける体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員は、日々の中での気づきを看護職員に伝え、早めの 処置や受診など、適切な対応が出来るようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 管理者が病院関係者との関係作りをしており、こまめに情報 交換や相談を行っている。家族とも連絡をとり意向を聞いて いる。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 現在、ターミナルケアの対象者はおられないが、マニュアル を作成し、家族に説明し、理解を得ている。また、勉強会で も取り上げ、職員全員で方針を共有していく。	
			(外部評価) 現在まで看取りの実績はないが「ターミナルケアマニュアル」 を作成し、本人や家族の希望に応じて看取りを行う方針 である。終末期ケアについては入居時に利用者と家族に事業 所の方針を説明し、同意を得ている。なお、状態の変化が あった場合はその都度話し合い、医師と連携しながら支援し ており、治療が必要な場合は、医療機関に入院できるよう支 援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時、事故発生時の対応方法について、グループホームの勉強会で学び、実際の現場で活かせるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害対策マニュアルを基に災害対策訓練実施、参加しており、全職員が避難指示、誘導が出来るようにしている。(年二回実施予定) 地域の方も訓練に参加していただき、協力関係作りに努めている。	
			(外部評価) 年2回消防署立ち会いのもと、日中と夜間想定で併設施設合同の避難訓練を実施しており、訓練には地区防災士をはじめ地域住民の参加もあり協力体制が構築できている。合同訓練では併設施設内職員が相互に協力するようマニュアル化されており、非常に厳しく緊張感を持って行われている。備蓄品は担当者を配置してリストを作成し準備している。また、運営推進会議で、大規模災害時は事業所を福祉避難所として利用できることを住民に伝えており、地域との連携も取れている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 相手の立場に立った声掛けや対応を心掛けており、一人ひとりの利用者には、尊敬の気持ちを持って接することとしている。勉強会も開催している。写真掲載等は同意書にて意向確認している。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉遣いや声かけができるよう、法人内での研修に力を入れており接遇等を中心に実施している。管理者は利用者の意向の尊重を第一と考え、忙しい中でも一旦手と足を止めて利用者の話をよく聴くよう指導しており、気づいていない時は、その都度注意し合うなどの対応を心がけている。また、利用者の声かけは常時「さん」づけで呼ぶように配慮し、入浴や排泄介助を行う際は利用者の要望に沿って同性介助を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご本人の気持ちがお聞きできる場合は、意見を言ってもらい、言葉で聞くことが難しい場合は表情や行動等から汲み取るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとり生活のペースや、習慣が違うが、その方のペースや習慣をできる限り守りながら、暮らしていけるよう希望に沿い、対応をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 身だしなみとして、着る服を選んで頂いたり、お化粧をする習慣がある方には続けていただけるよう支援をしている。職員も整容にはきをつけ「きれいなお年寄り(5S)」を意識している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事のメニューを作る際に、好みや希望をお聞きし、取り入れている。準備を手伝って頂いたり、職員も一緒に食卓を囲み、楽しく食事をしている。	
			(外部評価) 職員が交代で献立を考え食材を発注し、各ユニットで調理している。利用者はもやしの根取りやねぎを切るなど、できることを手伝っており、職員は料理の味付けや調理法を利用者から教わることも多い。また、敷地内にある菜園で育てた野菜と一緒に収穫し、献立に加えることもある。誕生日には利用者の好みを聞いて献立を変更し、ちらし寿司を作ったりパンケーキに生クリームをトッピングしたりしてお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量、水分摂取量の記録をしており、一日のトータル量を確認できるようにしている。摂取量の少ない方にはこまめに水分補給を勧めるなど対応をしている。本人へ同意をとり体重管理にて必要な場合食事量の調整を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の歯磨きができる方には毎食後声掛けを行い、介助が必要な方には、一緒に洗面所まで行き、必要なお手伝いをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 出来るだけオムツ、パットを使用せず過ごして頂けることを目指して、必要最小限の使用にしている。トイレの声掛け、誘導をこまめに行いトイレでの排泄を行っている。腹部マッサージ等も行いながら、排泄のお手伝いも行っている。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握して声かけをし、できる限りトイレで排泄ができるよう支援している。入院中おむつを使用していた利用者に対し、自立支援を行うことで日中は紙パンツで過ごせるようになるなど改善が見られる。また、なるべく自然に排便できるように座った状態で腹部マッサージをしたり、便秘症状を緩和するため腰などを暖める温罨法（おんあんぼう）を行い効果をあげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取量が少なくならないように、こまめに補給を行い、お通じのよくなるお茶や牛乳、ヨーグルトの提供を普段から行っている。運動をする機会も作っている。腹部マッサージ等も行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の曜日はある程度決めているが、本人の希望や都合にあわせて柔軟に対応をしている。時間帯についても、ご本人の希望を聞き、できるだけ希望に沿えるように対応をしている。	
			(外部評価) 週2回和式浴槽に入浴できるよう支援しており、家族の希望により夕方入浴する利用者にもできる限り柔軟に対応している。利用者の身体状態に合わせて、シャワーチェアや移乗台を使用して安全に浴槽に移動できるよう支援している。入浴が苦手な利用者には声かけや日を変えるなど工夫しており、無理強いをしないよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活習慣やその日の状態により、寝る時間や睡眠状態が変わってくるが、その時々に応じてゆっくりと休んで頂けるよう支援している。日中日光浴をしたり、夜ホットミルクを飲みながら談笑したり。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) カルテに効能や内容を綴じ、変更あれば内容も細かく申し送っている。使用している薬の目的、副作用、用法、用量の理解をして、服薬の支援を行うようにしている。症状の変化についても観察し、記録に残している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの好きなこと、楽しみなことを引き出し、それによって気分転換ができるように支援をしている。外出や散歩、おやつ作りやゲームなど実施している。職員も思考を凝らしている。その時の気分に合わせて、無理強いをしないようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 「外に出てみたい」という希望には職員と共に外に出て、気分転換が出来るように支援をしている。また、ご家族の協力を得て、外出が出来るように支援をしている。ドライブや外食等。	
			(外部評価) 天気の良い日は広々とした屋上で日光浴をしたり、敷地内や近所に散歩に出かけて気分転換ができるよう支援している。また、近くの神社へ参拝に行ったり桜の名所で花見を楽しむなど、福祉車輛を活用して季節ごとに外出できるよう支援しているほか、時々近くの回転寿司店に出かけることもあり利用者の楽しみになっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご自分で管理される方には、説明をし、ご家族の了解を得た上で、本人管理としている。お小遣いとして、預かる場合は、委任状を提出していただき、使用の際も、本人、家族に確認をしている。また、出納簿に個別に記録をし、管理をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望時、家族などへ電話をかける支援をしている。手紙のやり取りも自由に行うことができる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者が気持ちよく生活できるように、共用の空間が落ち着いたものであるよう、配慮している。季節を感じられるような草花や飾りを定期的に変え見て楽しんで頂く工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 季節感を感じてもらえるよう、ロビーの飾りつけを季節毎に変えている。職員の提案でブックトレードコーナーが設けられ、利用者のみでなく来訪者も自由に図書を持ち帰ることができる。また、月1回駄菓子屋が開店し、抹茶席も設けられている。リビングは対面式キッチンがあり、テーブル席やソファ席で自由にくつろぐことができる。壁には利用者別に作品が展示されており、利用者や家族にも喜ばれている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 共用空間の中で、その方が過ごしやすい場所は何処かを見つけ周囲の方との相性なども考慮しながら、寛げる環境が作れるようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室には、その方が長年使い、愛用していた物や好みのものを配置して、自宅のように居心地よく過ごすことが出来るように工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 居室は、木製ベッド、椅子、クローゼット、洗面台、エアコンが備え付けられている。使い慣れた家具、テレビや小型冷蔵庫などの電気製品を持ち込み、利用者の好きなように配置するなど、居心地よく過ごせる場所になっている。また、壁には家族写真がにぎやかに飾り付けられていたり、飾り棚に配偶者の遺影や観葉植物の小鉢を美しく飾られている部屋など一人ひとり個性的で、まるで自宅にいるように安心できる空間になっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 廊下には手すりを設置したり、できる限りバリアフリーとしている。見やすい所にカレンダーを設置している。また、ご自分で出来ることを奪わないケアを心掛け、ご自分で出来ることは、時間がかかっても気長に待つケアを行っている。環境整備には気をつけ、安全に生活できるよう努めている。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890101102
法人名	社会福祉法人 安寿会
事業所名	グループホームあわい
所在地	松山市小川甲214番1
自己評価作成日	平成28年5月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 6 月 14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりを大切に、その方のこれまでの生活をできる限り続けていけるような場所でありたい。個性を大事にして、自由にのびのびと暮らして頂けるように支援していく。認知症となっても笑顔で過ごすことが増えるような関わりを大切にできる関係作りに努めている。その人らしく個性を大切に生活を送ることができることを目指している。5S活動・接客強化にて清潔で気持ちの良い施設作り。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は高齢者総合福祉施設の1階に併設されており、開設3年目を迎える。長年にわたって地域医療と福祉に貢献してきた法人の活動を基盤に、地域に信頼され地域の支援を実感しながら交流を深めている。地域介護教室や認知症サポーター養成講座の開催、地域住民を招いて行われる花火大会など地域に根付いた活動を行っている。職員は法人の理念に基づいた経営方針を念頭に、日々サービスの向上に努めている。常に利用者を第一に考える姿勢を大切に、利用者の力を引き出して暮らしの中で役割を持ってもらえるよう働きかけたり、身体機能を維持するために楽しみながら歩行練習を実施する工夫等、職員が話し合いながら取り組んでいる。訪問中利用者が職員に、「ゆっくりおしな。」「よう気がつくなあ。」と声をかけ、利用者と良好な関係を築いている様子がうかがえた。笑顔を大切に、地域住民や家族と協力しながら利用者の支援に努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームあわい

(ユニット名) ほのか

記入者(管理者)  
氏名 横山啓介

評価完了日 平成 28年 5月 26日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「地域社会への貢献」が自分達の役割として認識できるよう終礼での理念復唱を行っている。各職員は意識づけができています。また、グループホーム独自の理念は、スタッフ室に掲示している。</p> <p>(外部評価) 法人理念に基づき、「お互いを認め合い笑顔が自然に出る馴染みの関係作り、その人らしい生活を送り安らげる環境作り、地域住民・ご家族とのつながりを大切にする」という事業所独自の理念とユニット毎の目標を掲げている。職員は、常に利用者を第一に考え、暮らしやすく居心地の良い事業所づくりを目指して、笑顔を大切に自立支援に努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の方々への挨拶を日常的に心掛けている。利用者の方と一緒に洗濯物干しに外へ出る時など、ご近所の方とお話ができている。地域清掃や行事へ参加し交流している。</p> <p>(外部評価) 管理者は年を追うごとに地域とのつき合いが深まり、地域に支えられているという実感を持っている。正月のしめ縄や門松づくり、餅つき会を地域の方と一緒にいたり、花火大会や夏祭りでは櫓や資材を借りて協力して実施している。また、小学生が職場体験に来て伊予漫才を披露してくれたり、利用者が散歩の途中で近所の方に野菜をいただくなどの交流がある。事業所では、地域清掃に参加するほか、地域住民を対象に介護教室や認知症サポーター養成講座を開催している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 「地域介護教室」という地域の方々を対象にした勉強会を開催し、事業所からの情報発信を行う場が作られている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2ヶ月に1度、運営推進会議を行い、ご利用者やご家族から頂いた意見を参考にしながら、サービス内容を振り返り、できることから改善を行っている。参加できていない職員へも議事録回覧し情報共有している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者と家族のほか、区長や民生委員、地区婦人会、評議員、地域包括支援センター職員、市職員の参加を得て2か月に1回開催しており、スライドを使った活動報告やミニ勉強会の後、活発な意見交換が行われている。また、参加者からの地域の情報提供や屋上での行事開催の提案などをサービス向上に活かしており、参加者と職員が親密になり協力関係も生まれている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に参加をして頂き、事業所の実情など積極的に伝え、情報を得ている。</p> <p>(外部評価) 市職員は運営推進会議に出席して事業所の実情を把握するとともに、情報提供や助言を行っている。問題が生じた時には市担当課と連絡を取り、解決に向けた話し合いを持つなど協力関係ができています。また、法人が地域包括支援センターを運営しているため、協力して職員の資質向上のための教室を開催する等連携している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束ゼロを念頭に置き、利用者の行動の自由を奪うことがないように、言葉かけにも気を付けている。日中、玄関の施錠はせず、外に出たい希望は可能な限り、叶えるようにしている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束防止・廃止委員会があり、年に1回勉強会を行っている。転倒の危険がある利用者に対しては、移動しやすい環境を整えたり、センサーマットを活用して職員が見守るようにして利用者が安全かつ自由に行動できるよう支援している。今年度は法人をあげて「言葉遣い」に気をつけており、気付いた時に互いに注意し合うようにしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止について、勉強会などで学ぶ機会をつくり、日々の自分たちの言葉や行動が虐待に繋がらないか注意をしながらケアにあたっている。夜間帯、一人の時間等の様子も可能な限り管理者が抜きうちで観察している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在対象者がおられず実施できていないが、今後知識を深めていく予定としている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者が入居時に説明を行っている。また、利用者や家族の不安や疑問に対して、時間をとり、説明したりと理解が得られるように努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日頃の会話を大切にし、話を十分に聴くようにしている。また、必要な対応を迅速に行えるようしている。意見箱の設置を行い、意見が言える環境を作っている。	
			(外部評価) 職員は家族来訪時や、電話で家族の意見を聴き取るよう努めている。玄関先に意見箱を設置しているが、これまでの意見は感謝の内容だけであった。また、納涼祭とクリスマス会に合わせて年2回家族会を開催し、自由に意見を述べてもらえるよう配慮している。管理者は家族の要望や具体的な意見をより一層聴き取れるよう、家族会の回数や方法について検討している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員からの意見を聞いて運営に活かされている。代表者と管理者それぞれとの面談が設けられている。職員一人ひとりの話をよく聞かれている。  (外部評価) 職員は、管理者のことを意見や提案を言いやすい存在で話しやすい雰囲気があると感じている。事業所では年3回個別面談を行い、施設長や管理者が職員の意見を聞く機会を設けている。また、リフレッシュ休暇を設けたり、法人内で研修の機会を保障するなど、職員が意欲を持って働けるような環境づくりをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、管理者や職員個々の日々の業務態度をよく把握している。各自がやりがいと意欲を持って働けるように環境整備に努められている。リフレッシュ休暇を年1回取得実行中。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 毎月法人内で勉強会・GH勉強会を実施しており、職員一人一人のケアの質の向上を目指している。働きながら、勉強や研修ができるようすすめられている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同法人内に事業所が複数あり、法人勉強会などで事例検討したり交流する機会がある。自分たちのサービスの質を向上させられるよう意識をしている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 新しい環境に入居してこられ、不安も抱えられておられる状態なので、心情を察しながら、こまめに声をかけるように、話に耳を傾けるように、心掛けている。センター方式等情報を早期に収集するよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 運営規程、重要事項にそって、当施設の内容を説明し、家族が困っていること、不安に思っていること、求めていることを理解するようにしている。また、食事を一緒にしたり、宿泊できることを説明し、職員の対応等をみてもらい、安心に繋げていく。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居時オリエンテーションを行い、必要とされている事を優先して入所時ケアプランに取り入れ、支援を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 調理や掃除洗濯、日々の生活で知恵を拝借したり、職員も教わりながら良い関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご本人にとって、家族との絆にかえられるものはないので、その絆を大切にしながら、連携がとれるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご本人がこれまで大切にされてきた家族、友人、知人と過ごされる時間を大事にしている。また、ご自宅や家族宅などへの外出、外泊も支援している。開かれた施設作りに努めている。 (外部評価) 地元出身の利用者が多く、家族や親せきが多く面会に訪れている。職員は事業所の敷居を低くして、気軽に会いにきてもらえるよう努めている。突然知人が訪ねて来る場合もあり、家族に利用者が入居していることを伝えて良いか入居時に確認し個人情報に配慮している。家族と外食に出かけたり、外泊する利用者もあり、馴染みの関係が継続できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の相性やお互いの気持ちなどを観察するようにしている。席の配置や職員が仲裁にはいたり、気をつけている。お互いに思いやり、声をかけたり教えあったりする良好な関係作りができています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 病院に入院となり、グループホームを退去された利用者や家族の面会に行かせて頂くなど、これまでの関係性を大切にしている。相談にのるなど、法人全体でバックアップする。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) これまで暮らして来られた長年の生活について、知る努力をして、その方の望む生活がどのようなものかを理解していき、実現に繋げていく。  (外部評価) 職員は、日常的に行われる利用者同士の会話や昔話の中からは、利用者の思いや希望を把握するよう努めている。事業所は開設して日が浅いため、利用者の奥深い思いや意向は家族の方がよく理解していることもあり、家族からも情報を得るようにしている。職員は常にアンテナを張り巡らせ、利用者に関することは小さなことも見逃さないよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの暮らしはどうであったか、ご本人や家族、友人、知人等から情報を集めていけるようお話を聞いたり、情報シートに記入をして頂いている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) カルテに経過記録、熱計表への記録として残し、細かく把握できるようにしている。有する力の活用にも努めている。観察の眼を日頃から養い常にアンテナを張る。情報共有の徹底。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画は、本人を中心として家族、知人、ケアに関わる職員などで話し合いを行い、現状でのより良い生活を目指して立案されている。	
			(外部評価) 介護計画は、利用者毎の担当職員と計画作成担当者が協力して立案し、家族や必要に応じて法人の看護師や理学療法士を交えて話し合いの上作成しており、職員全員が共有している。職員は、実施状況を毎日確認し、毎月のモニタリングに反映させている。また、利用者の状態に変化がある場合はその都度見直し、ない場合も6か月に1回見直しており、現状に見合った計画かどうかを確認している。なお、介護計画書は、家族に同意を得られるよう細かく丁寧に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の記録の中でも、特に本人の言葉や表情をありのままに記入するようにしている。その上での気づきを次の実践や介護計画に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 帰宅願望の強い方には、自宅周辺を目指してドライブを行ったり、家族と共に病院への通院介助を行ったりと可能な限りのお手伝いをさせて頂いている。状態の変化に伴いサービスの提案や、医療機関との連携も素早くとっている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域のお祭りに参加させていただき、獅子舞いやだんじりを目の前で見せてもらうことで活力が湧き、また、地域の方とも交流を図ることができている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医が決まっている方は、家族の協力を得て受診し て頂き、適切な医療が受けられるようにしている。 主治医が協力病院の場合は、二週間に一度訪問診療を受けら れている。	
			(外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医を受診することができる が、多くの利用者が協力医をかかりつけ医としている。協 力医は2週に1回訪問診療を行い、緊急は24時間体制を とっている。歯科医の往診を受けることもできる。車いすを 使用している利用者が専門医や総合病院を受診する際は、職 員が付き添っている。事業所看護師と協力医の医療連携のも と、安心して医療を受ける体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員は、日々の中での気づきを看護職員に伝え、早めの 処置や受診など、適切な対応が出来るようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 管理者が病院関係者との関係作りをしており、こまめに情報 交換や相談を行っている。家族とも連絡をとり意向を聞いて いる。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 現在、ターミナルケアの対象者はおられないが、マニュアル を作成し、家族に説明し、理解を得ている。また、勉強会で も取り上げ、職員全員で方針を共有していく。	
			(外部評価) 現在まで看取りの実績はないが「ターミナルケアマニユア ル」を作成し、本人や家族の希望に応じて看取りを行う方針 である。終末期ケアについては入居時に利用者と家族に事業 所の方針を説明し、同意を得ている。なお、状態の変化があ った場合はその都度話し合い、医師と連携しながら支援し ており、治療が必要な場合は、医療機関に入院できるよう支 援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時、事故発生時の対応方法について、グループホームの勉強会で学び、実際の現場で活かせるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害対策マニュアルを基に災害対策訓練実施、参加しており、全職員が避難指示、誘導が出来るようにしている。(年二回実施予定) 地域の方も訓練に参加していただき、協力関係作りに努めている。	
			(外部評価) 年2回消防署立ち会いのもと、日中と夜間想定で併設施設合同の避難訓練を実施しており、訓練には地区防災士をはじめ地域住民の参加もあり協力体制が構築できている。合同訓練では併設施設内職員が相互に協力するようマニュアル化されており、非常に厳しく緊張感を持って行われている。備蓄品は担当者を配置してリストを作成し準備している。また、運営推進会議で、大規模災害時は事業所を福祉避難所として利用できることを住民に伝えており、地域との連携も取れている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 相手の立場に立った声掛けや対応を心掛けており、一人ひとりの利用者には、尊敬の気持ちを持って接することとしている。勉強会も開催している。写真掲載等は同意書にて意向確認している。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉遣いや声かけができるよう、法人内での研修に力を入れており接遇等を中心に実施している。管理者は利用者等の意向の尊重を第一と考え、忙しい中でも一旦手と足を止めて利用者の話しをよく聴くよう指導しており、気づいていない時は、その都度注意し合うなどの対応を心がけている。また、利用者の声かけは常時「さん」づけで呼ぶように配慮し、入浴や排泄介助を行う際は利用者の要望に沿って同性介助を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご本人の気持ちがお聞きできる場合は、意見を言ってもらい、言葉で聞くことが難しい場合は表情や行動等から汲み取るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとり生活のペースや、習慣が違うが、その方のペースや習慣をできる限り守りながら、暮らしていけるよう希望に沿い、対応をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 身だしなみとして、着る服を選んで頂いたり、お化粧をする習慣がある方には続けていただけるよう支援をしている。職員も整容にはきをつけ「きれいなお年寄り(5S)」を意識している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事のメニューを作る際に、好みや希望をお聞きし、取り入れている。準備を手伝って頂いたり、職員も一緒に食卓を囲み、楽しく食事をしている。	
			(外部評価) 職員が交代で献立を考え食材を発注し、各ユニットで調理している。利用者はもやしの根取りやねぎを切るなど、できることを手伝っており、職員は料理の味付けや調理法を利用者から教わることも多い。また、敷地内にある菜園で育てた野菜と一緒に収穫し、献立に加えることもある。誕生日には利用者の好みを聞いて献立を変更し、ちらし寿司を作ったりパンケーキに生クリームをトッピングしたりしてお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量、水分摂取量の記録をしており、一日のトータル量を確認できるようにしている。摂取量の少ない方にはこまめに水分補給を勧めるなど対応をしている。本人へ同意をとり体重管理にて必要な場合食事量の調整を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の歯磨きができる方には毎食後声掛けを行い、介助が必要な方には、一緒に洗面所まで行き、必要なお手伝いをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 出来るだけオムツ、パットを使用せず過ごして頂けることを目指して、必要最小限の使用にしている。トイレの声掛け、誘導をこまめに行いトイレでの排泄を行っている。腹部マッサージ等も行いながら、排泄のお手伝いも行っている。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握して声かけをし、できる限りトイレで排泄ができるよう支援している。入院中おむつを使用していた利用者に対し、自立支援を行うことで日中は紙パンツで過ごせるようになるなど改善が見られる。また、なるべく自然に排便できるように座った状態で腹部マッサージをしたり、便秘症状を緩和するため腰などを暖める温罨法（おんあんぼう）を行い効果をあげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取量が少なくならないように、こまめに補給を行い、お通じのよくなるお茶や牛乳、ヨーグルトの提供を普段から行っている。運動をする機会も作っている。腹部マッサージ等も行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の曜日はある程度決めているが、本人の希望や都合にあわせて柔軟に対応をしている。時間帯についても、ご本人の希望を聞き、できるだけ希望に沿えるように対応している。	
			(外部評価) 週2回和式浴槽に入浴できるよう支援しており、家族の希望により夕方入浴する利用者にもできる限り柔軟に対応している。利用者の身体状態に合わせて、シャワーチェアや移乗台を使用して安全に浴槽に移動できるよう支援している。入浴が苦手な利用者には声かけや日を変えるなど工夫しており、無理強いをしないよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活習慣やその日の状態により、寝る時間や睡眠状態が変わってくるが、その時々に応じてゆっくりと休んで頂けるよう支援している。日中日光浴をしたり、夜ホットミルクを飲みながら談笑したり。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) カルテに効能や内容を綴じ、変更あれば内容も細かく申し送っている。使用している薬の目的、副作用、用法、用量の理解をして、服薬の支援を行うようにしている。症状の変化についても観察し、記録に残している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの好きなこと、楽しみなことを引き出し、それによって気分転換ができるように支援をしている。外出や散歩、おやつ作りやゲームなど実施している。職員も思考を凝らしている。その時の気分に合わせて、無理強いをしないようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 「外に出てみたい」という希望には職員と共に外に出て、気分転換が出来るように支援をしている。また、ご家族の協力を得て、外出が出来るように支援をしている。ドライブや外食等。	
			(外部評価) 天気の良い日は広々とした屋上で日光浴をしたり、敷地内や近所に散歩に出かけて気分転換ができるよう支援している。また、近くの神社へ参拝に行ったり桜の名所で花見を楽しむなど、福祉車輛を活用して季節ごとに外出できるよう支援しているほか、時々近くの回転寿司店に出かけることもあり利用者の楽しみになっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご自分で管理される方には、説明をし、ご家族の了解を得た上で、本人管理としている。お小遣いとして、預かる場合は、委任状を提出していただき、使用の際も、本人、家族に確認をしている。また、出納簿に個別に記録をし、管理をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望時、家族などへ電話をかける支援をしている。手紙のやり取りも自由に行うことができる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者が気持ちよく生活できるように、共用の空間が落ち着いたものであるよう、配慮している。季節を感じられるような草花や飾りを定期的に変え見て楽しんで頂く工夫をしている。  (外部評価) 季節感を感じてもらえるよう、ロビーの飾りつけを季節毎に変えている。職員の提案でブックトレードコーナーが設けられ、利用者のみでなく来訪者も自由に図書を持ち帰ることができる。また、月1回駄菓子屋が開店し、抹茶席も設けられている。リビングは対面式キッチンがあり、テーブル席やソファ席で自由にくつろぐことができる。壁には利用者別に作品が展示されており、利用者や家族にも喜ばれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間の中で、その方が過ごしやすい場所は何処かを見つけ周囲の方との相性なども考慮しながら、寛げる環境が作れるようにしている。、	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には、その方が長年使い、愛用していた物や好みのものを配置して、自宅のように居心地よく過ごすことが出来るように工夫をしている。  (外部評価) 居室は、木製ベッド、椅子、クローゼット、洗面台、エアコンが備え付けられている。使い慣れた家具、テレビや小型冷蔵庫などの電気製品を持ち込み、利用者の好きなように配置するなど、居心地よく過ごせる場所になっている。また、壁には家族写真がにぎやかに飾り付けられていたり、飾り棚に配偶者の遺影や観葉植物の小鉢を美しく飾られている部屋など一人ひとり個性的で、まるで自宅にいるように安心できる空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下には手すりを設置したり、できる限りバリアフリーとしている。見やすい所にカレンダーを設置している。また、ご自分で出来ることを奪わないケアを心掛け、ご自分で出来ることは、時間がかかっても気長に待つケアを行っている。環境整備には気をつけ、安全に生活できるよう努めている。	